



夢の本棚

発行所：松居直コレクションプロジェクト
 代表：金戸 美紀子
 事務局：石川県小松市 小馬出町10-3
 空とこども絵本館
 ☎ 0761-23-0033
 bookrin@city.komatsu.lg.jp

【活動方針】①絵本の楽しさを伝える <親子読書の奨励> ②絵本の歴史を学び、進むべき方向を考える <絵本文化の研究>
 ③市が所有する知的財産として、次世代に正しく伝える <絵本文化の継承>

◆1922（大正11）年に日本です。当時、日本は童謡の黄金時代。童謡がどんどん新しく作られる時代でした。北原白秋とか西条八十とか野口雨情とか、あるいはそのほかに日本の詩人が、子どものための詩を作ったんです◆その一番最新作ってのは、少し難しい童謡は『赤い鳥』、少しやさしい

◆1922（大正11）年に日本です。当時、日本は童謡の黄金時代。童謡がどんどん新しく作られる時代でした。北原白秋とか西条八十とか野口雨情とか、あるいはそのほかに日本の詩人が、子どものための詩を作ったんです◆その一番最新作ってのは、少し難しい童謡は『赤い鳥』、少しやさしい



月刊『コドモノクニ』
 『コドモノクニ』表紙、誌封紙
 1922年1月

『こどものとも』に込めた思い④
 絵本の基礎を作った絵雑誌



北原白秋

「こどものとも」以前の月刊絵本（上）

★明治期の絵雑誌：『婦人と子ども』フレーベル会の機関誌 1901（明治34）年；『こども』日本で最初の絵雑誌 児童美育会 1904（明治37）年；『幼年画報』博文館 1906（明治39）年；『家庭教育絵はなし』→『幼年の友』実業之日本社 1909（明治42）年★大正期の絵雑誌：『コドモ』コドモ社、『子供之友』婦人之友社 1914（大正3）年；『赤い鳥』鈴木三重吉 1918（大正7）年；『金の船』金の船社→金の星社 1919（大正8）年；『童話』コドモ社 1920（大正9）年；『コドモノクニ』東京社 1922（大正11）年；『コドモアサヒ』朝日新聞社 1923（大正12）年



『赤い鳥』創刊号表紙

んです。当時、日本は童謡の黄金時代。童謡がどんどん新しく作られる時代でした。北原白秋とか西条八十とか野口雨情とか、あるいはそのほかに日本の詩人が、子どものための詩を作ったんです◆その一番最新作ってのは、少し難しい童謡は『赤い鳥』、少しやさしい

◆北原白秋は、短歌も作りましたし、童謡はもちろん大人の詩も素晴らしいし、正岡子規の歌の翻訳は、今でも話題になるくらいですね。それだけ、日本語の使い手としては最高の詩人です。詩人てい

うのを耳から私は詩を聞いて育ったんです。◆物語ではなくて。それが今になると、とっても私は感謝しております◆特に、北原白秋と西条八十の童謡が私は好きでしたし、北原白秋が一番好きでした。そして今、北原白秋の童謡を読みますと、素晴らしい日本語です。日本語のエッセンスをそこに表現しています◆私は、谷川俊太郎さんが20か21歳の頃に、子どものための詩をお願いした編集者です。谷川さんが「北原白秋にはかありません」とおっしゃったことが、ほんとに忘れられません。

◆北原白秋は、短歌も作りましたし、童謡はもちろん大人の詩も素晴らしいし、正岡子規の歌の翻訳は、今でも話題になるくらいですね。それだけ、日本語の使い手としては最高の詩人です。詩人てい

うのは、言葉ってものを磨く人なんです◆ある作家が言っていることなんですよけど「手垢にまみれた言葉を、詩人はちゃんと磨いてまっさらな言葉にして、詩を書いていく。私たちにそれをちゃんと伝えてくれるんだ」と◆同じ言葉でも詩人にかかると、ピカピカの詩になるんです。前後の言葉の関係で、見事に生き返ってくるんですね。普段私たちが使っているような言葉が。ですから、子どもに詩を読んでもやるつてのは、とっても大切なことなんです◆



西条八十、白秋と八二スズムで